

単位数	3単位	学科・学年・学級	普通科 1 学年 A～H組
教科書	新編数学Ⅰ（数研出版）	副教材等	基本と演習テーマ 数学Ⅰ＋A （数研出版）

1 学習の到達目標

数と式、2次関数、図形と計量、集合と論証およびデータの分析に関する基礎的な知識の習得と技術の習熟を図り、それらを的確に活用する能力と数学的なものの見方や考え方ができる能力を培うとともに、数学のよさを認識できるようにする。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第1学期	4	第1章 数と式	第1節 式の計算	・整式の加法・減法・乗法および因数分解について理解を深め、能率よく計算する。	行動観察 小テスト ノート分析 定期考査
			第2節 実数	・数を実数まで拡張することの意義を理解し、実数の概念や平方根を含む計算の仕方を理解する。	
			第3節 1次不等式	・不等式とその解の意味や性質を理解し、1次不等式の解法を身につける。	
	5		中間考査		
第2学期	6	第3章 2次関数	第1節 2次関数とグラフ	・関数とそのグラフについて理解を深め、2次関数のグラフの概形を、平行移動の考え方を利用してかく。	行動観察 小テスト ノート分析 定期考査
			第2節 2次関数の値の変化	・2次関数の最大値や最小値を求める。 ・与えられた条件を基に、その2次関数を求める。	
			期末考査		
	9	第3章 2次関数（続き）	第3節 2次方程式と2次不等式	・2次関数のグラフを利用して2次方程式や2次不等式の解について理解を深め、2次不等式の解法を習熟する。	行動観察 小テスト ノート分析 定期考査
第2学期	10	第4章 図形と計量	第1節 三角比 1. 三角比 2. 三角比の相互関係	・三角比の概念を理解し、相互関係について理解を深め、身近な問題の解決に活用する。	
			中間考査		
	11	第4章 図形と計量（続き）	第1節 三角比 3. 三角比の拡張	・三角比を鈍角まで拡張し、相互関係について理解を深め、身近な問題の解決に活用する。	行動観察 小テスト ノート分析 定期考査
	12		第2節 三角形への応用	・正弦定理、余弦定理および三角比を用いた三角形の面積の公式を用いて、図形の辺の長さや角の大きさ	
			期末考査		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
第3学期	1	第2章 集合と命題	集合と命題	・ 集合に関する基本的な事項を理解する。	行動観察 小テスト ノート分析 定期考査
	2			・ 集合の包含関係と関連付けて命題の真偽や必要条件、十分条件を理解することを通し、論理的な思考力を伸ばす。	
	3	第5章 データの分析	データの分析	・ 分散、標準偏差、相関係数などの用語を理解し、目的に応じて、データを収集・整理し、データの傾向が把握する。	
			学年末考査		

3 評価の観点

知識・技能	「数と式」・「方程式と不等式」・「2次関数」・「図形と計量」・「集合と論証」・「データの分析」及び「課題学習」における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などをきちんと理解し、基本的な知識を身につけることができたか。また、計算も正確に行うことができるか。
思考・判断・表現	「数と式」・「方程式と不等式」・「2次関数」・「図形と計量」・「集合と論証」・「データの分析」及び「課題学習」における数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的に捉えかつ論理的に考えるとともに、思考の過程を振り返って多面的・発展的に考えることができるか。
主体的に学習に取り組む態度	数学的な活動を通して、「数と式」・「方程式と不等式」・「2次関数」・「図形と計量」・「集合と論証」・「データの分析」及び「課題学習」における考え方に興味を持つとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識し、日頃からそれらを活用しようと心がけているか。

4 評価の方法

各定期考査や小テストなどの結果、プリント・授業ノート・宿題などの提出状況やその内容を精査し、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

数学Ⅰは、次年度以降学習する数学の全分野の基礎について学ぶ大切な科目です。積極的に授業に参加し、問題集などは自ら進んで解き進めましょう。ノートは単に板書したことを写すのではなく、例題についての解法の手順や必要な公式などが後から読んでも十分理解できるように作成してください。また、授業開始前には教科書・ノートなど必要なもの全て準備し、きちんと着席して下さい。そして予習・復習も欠かさないようにしましょう。
--